

問い合わせ先
海上保安庁海洋情報部海洋調査課
課長補佐 矢島 広樹
電話 03-5500-7126



平成 27 年 7 月 6 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動状況（速報）

海上保安庁は、先月 22 日より所属測量船「昭洋」を派遣し、西之島周辺の海底地形等の調査を実施しています。測量船「昭洋」の情報によると、本日（7 月 6 日）西之島の火山活動に変化が見られました。

活動状況の変化

7 月 6 日の測量船「昭洋」の情報によると、これまでの火山活動では火砕丘頂部の火口から爆発を伴いながら断続的に噴煙を上げていましたが、6 日午前 6 時 30 分頃、同火口からの噴煙の放出が見られなくなり、同日午前 10 時 50 分頃、西之島の火砕丘の北東斜面から噴煙が発生し、新たに火口が形成されました。

6 日午後 1 時現在、新たに形成された火口から噴煙が間欠的に上がるとともに、火砕丘斜面上方とホルネト状の噴気孔から白い噴気が盛んに放出されている一方、火砕丘頂部の火口からの噴煙は 6 時間以上止まったままとなっています（図参照）。

測量船「昭洋」に同乗している野上教授からは、

「午前 6 時 30 分頃から火砕丘頂部の火口での噴火が停止し、火砕丘北東斜面から大量に噴気を上げるエリアが出現した。その後このエリアの最下部付近から新たに噴火が発生した。これは、ガスの放出経路が何らの理由で変化したために従来の火口での噴火が停止したものと考えられ、これによって斜面から新たに噴火が発生したものと考えられる。」

とのコメントが得られた。



図 火砕丘北東斜面の新たな噴煙（7月6日午前10時50分頃）

【参考1】

海上保安庁船艇による西之島周辺海域の調査

調査期間：平成27年6月22日（月）～7月10日（金）の19日間

使用船舶：測量船「昭洋」（3000トン）、無人調査艇「マンボウII」（5トン）

【参考2】

最近（6月18日）の観測時点での西之島の形状（暫定値）

・東西：約2,000m（5月20日時点 東西：約2,000m）

・南北：約2,100m（5月20日時点 南北：約1,900m）

・面積：約2.70平方km、東京ドームの約58倍、噴火前の西之島の約12倍

（参考）西之島全体の面積：約2.71平方km（旧西之島を含む）

